

NZSJは1959年11月から数えて、今年は創立61年目を迎えております。

日本ニュージーランド協会 会員の皆さま ご無沙汰いたしております。

皆さまとお会いする活動の機会が持てずに2021年、令和3年スタート致しました。天候も良く、桜の満開の時期が予想より早まりそうです。

皆さまにおかれましては、ご健勝にお過ごしのことと存じます。

コロナ禍の中、ホームページ上ではオークランド在住の方がたからの情報を共有させて頂いておりますので、沢山の方にニュージーランドの情報を知っていただければ嬉しい限りです。

年度初めには、例会の活動としまして、日本ニュージーランド学会との共同研究発表がオンライン上で3月13日に開催が予定されております。

これらの情報を今年の初回のニュースレター(WAIHEKE)でもお知らせいたします。

コロナ状況をみながら、今後の活動などの情報発信を継続していくつもりですので、宜しくお願い致します。

日本ニュージーランド協会
会長 山崎 弘子

1. 合同研究会のお知らせ

日本ニュージーランド学会、日本ニュージーランド協会、日本マンスフィールド協会による合同研究会を、下記の通りインターネット上で開催いたします。

日時：2021年3月13日（土）～20日（土）

場所：日本ニュージーランド協会ホームページ をご覧ください。

<http://nzsj.tokyo> 「合同研究会(2021年3月13日)」

研究発表

1. 山田修平(日本ニュージーランド学会)

高等学校生物学習における生態系の学習内容の分析

-野生動物の保護への関心を向上させるための単元開発-

2. 片山愛一(日本ニュージーランド協会)

最新通信技術がもたらすニュージーランドの進化

3. 柴田優子(中央学院大学、日本マンスフィールド協会会長)

マンスフィールドの New Zealand Stories

※ 上記の発表に質問等がある場合は、開催期間中にメールにてお願いします。

後日、ホームページ上でお答えします。メールアドレス：nzsj@outlook.jp

※ 上記発表内容は日本ニュージーランド学会のホームページでもご覧になれます。

<http://jsnzs.sakura.ne.jp> 「合同研究会(2021年3月13日)」

質問のメール：jnz.gakkai@gmail.com

※ なお、3月13日13:00より片山氏の発表をZoomでも行います。

参加希望者はメールでsawabe@koeki-u.ac.jpまで連絡して下さい。

ZoomのURLを送りますので、それをクリックしていただくと、参加できます。

インターネットにつながるパソコン、タブレット、スマホがあれば、参加可能です。

2. ニュージーランド高校滞在レポート(2021 年 1 月号)

皆様あけましておめでとうございます！

ニュージーランドのオークランドに留学している粕谷海人です。

新型コロナウイルスがなければ、今頃僕は日本の大学の合格を決め、完全帰国をしていたはずなのですが、新型コロナウイルスの影響により、秋に推薦入試のための一時帰国をすることが叶いませんでした。内心、NZ を離れることへの心残りもあった僕は、急きよ NZ の大学を目指すことになり、留学 3 年目にして初めて NZ でのクリスマス&年越しをすることになったのでした。そこで今回は僕の体験した NZ のクリスマスと年越しを紹介したいと思います。

まず初めに、NZ でのクリスマスを紹介したいと思います。



NZ ではハロウィンが終わると日本のようにスーパーマーケットやショッピングセンターはクリスマス一色となり、店頭にはクリスマスのデコレーションやお菓子などがたくさん並びます。

しかし、NZ は南半球なのでクリスマスの時期は真夏です。クリスマス用品とウォーターレジャー用品が仲良く陳列されている光景が、日本人の僕にはとても奇妙であり面白く感じました。

クリスマスが近づくと、僕のホストファミリーはクリスマスの準備で忙しくなります。フォーマルラウンジにはクリスマスツリーが飾られ、ツリーの下には数々のプレゼントボックスが並べられます。また 12 月 24 日は、朝から、様々なクリスマス料理の調理が始まります。海外のクリスマス料理といえばローストターキーと派手なケーキのイメージですが、僕のホストファミリーは南アフリカ出身なので、一般的なニュージーランドのクリスマス料理とは違います。この日は、『ビリヤニ』という炊き込みご飯のような料理（元々はインド料理ですが、ホストマザーの得意料理。時間がかかるのでパーティなどの特別な日に作ってくれます）や、茹でた塩漬けの牛肉料理『ソルトビーフ』を作りました。

このように家庭によってさまざまなクリスマス料理がふるまわれるのも、多民族国家であるニュージーランドならではの思い出です。

クリスマス当日は、まず初めに、ホストファミリーの息子さん夫婦と二人の子ども（孫たち）と一緒に、ビリヤニを持って『もう一人のおばあちゃん（息子さんの奥さんのお母さん）』の家に伺いました。おばあちゃんの家にはすでに多くの親戚が集まっており、みな暖かく僕たちを迎えてくれました。僕たちはそこでクロワッサンなどの軽食と温かい紅茶やジュースを頂きました。2 時間ほどの滞在后、帰り際に僕はおばあちゃんからクリスマスプレゼントとしてニュージーランド柄の T シャツを頂きました！

帰宅後早々、再び、料理が大好きなホストマザー（指揮官？）の指示の元、新たな料理が始まりました。マカロニ、ローストラム、ローストチキン、ポテトサラダなどを 2~3 時間かけて調理し、その間、僕もずっとキッチンから離れることはできませんでした。



最後に、『トライフル』というゼリー、スポンジ、カスタードを混ぜ合わせたイギリスのデザートを作りましたが、このデザート作りはホストファザーの担当でした。



夕飯後は、プレゼントを開けたりテレビを見たりなど家族で楽しい時間を過ごしました。

クリスマスの翌日には、みんなで海に行きパドルボードに乗りました。僕は初挑戦でしたが、バランスをうまくとり、ボードの上に立つことができました。この日、僕は一度も海に落ちることがなく、すっかりパドルボードの虜になってしまいました。

僕のホストファミリーは、毎年、年末年始は南アフリカで過ごすことが多いのですが、今年は『もう一人のおばあちゃん』の別荘で過ごすことになりました。

大忙しのクリスマスから 5 日後の 30 日、『もう一人のおばあちゃん』の別荘には多くの親戚が泊まりに来るため、僕たちは寝泊りのためのキャンピングトレーラーを牽引し、車で別荘へ向かいました。

到着後、キャンピングトレーラーを庭に設置し、入り口にシェルターを取り付けたのですがこの日は強風のため作業がなかなか進まず、寝泊りの準備に 3 時間もかかってしまいました。僕はキャンピングトレーラーでの寝泊りは初めてで、寝られるかどうか心配でしたが、カプセルホテルのような心構えでいたら（実はカプセルホテルで寝たこともないのですが）すんなりと寝ることができました。

年明けの瞬間はホストファミリーと一緒に過ごしました。周りの家では音楽を流したり花火をしたりと、どんちゃん騒ぎをしていましたが、僕たちは静かにお茶をしながら話したり映画を見たりしながら過ごしました。

日本の友だちには、新年のあいさつ LINE を送りましたが、4 時間の時差があるので、日本はまだ大晦日の夜 8 時。「なに先に年越してるんじゃ！」という返事が戻ってきたりして、年明けから楽しい日となりました。

今回のレポートは以上です。NZ でのクリスマスと年越し、新年の雰囲気但至少でも感じていただけたならうれしいです！

今年 1 年間は NZ での大学受験に向けてより一層頑張っていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いたします！

2021 年 1 月 10 日

粕谷海人

3. ニュージーランド便り from ウェリントン(2021年2月号)

ご無沙汰しております。ウェリントンより高橋です。今年で三度目を迎えたウェリントンの夏はこれまでに中でも比較的雨の多い季節となり、そのため気温もそこまで上がらず、よく言えば過ごしやすい夏、悪く言えば夏らしくない夏となりました。ヴィクトリア大学では、今月下旬より今年の第一学期が始まるため、構内では教職員はもちろんのこと、学生数も日を追うごとに増えている印象を受けます。

さて、本日お伝えしたい内容に、2月3日、オークランド大学にて開催された私の研究発表がございます。この企画は、同大学日本学センター (The Japan Studies Centre) が主催し、私がゲスト講師として登壇致しました。

「To the Utopia across the Ocean: Kawase Isamu and the Origin of Grassroots Internationalism in Post-war Japan (「海の向こうのユートピアへ：川瀬勇と戦後日本における草の根国際主義の起源」)」と題し、特に1930年代から40年代にかけての川瀬氏の活動に焦点を当てながら、それを当時の日本やニュージーランドをめぐる国際情勢の文脈の中で捉え、これまで見落とされてきた歴史的意義を見出すことができるか、といった内容を発表致しました。



これまで、主に日米、日英、そして日本とアジアにおける文化交流の歴史は内外の研究者により多くが検証されてきました。それらと比べると、日本とニュージーランドの交流史の多くはほとんど注目されてきませんでした。この状況下において、20世紀前半の日本・ニュージーランド関係は、往々にして「友・敵」の両極から論じられることが多く、実際の社会状況に肉薄した研究は少ない状況が今日まで続きました。

しかし、川瀬氏の取り組みやそこにおけるニュージーランド観を丹念に読み解くことで、こうした二項対立では見えない二つの社会をめぐる結びつきを見ることが可能になり、その結果、今日の両国関係はおろか、深まるアジア太平洋地域間の社会・文化間交流をめぐる、ひとつのルーツを辿ることが出来る、と考えています。

会場には、濱田真一・在オークランド総領事はじめ、25名程度の方にお越し頂きました。そしてそこで日本ニュージーランド協会理事を務められるジリアン・ヨーク様にも初めてご挨拶することが叶いました。



セミナー当日の様様

2021年2月10日
ヴィクトリア大学
ウェリントン言語文化学部
講師 高橋進之介

shin.takahashi@vuw.ac.nz +64-(0)-21-0850-0502

4. 季節のご挨拶(2020 年)

日々の暮らし

2020 年は新型コロナウイルスに始まり、収束しないまま年を越すことになりました。

それでも毎年のことですが、1 年でいちばん昼の長いこの時期となると、台所の右側の大きなガラス窓から夕陽が差し込んで来るようになります。これは午後 8 時頃のことです。自然の営みは、異常なコロナ禍をもものともせず、正確に地球の時を刻んでいます。

年末となると、定例となったツバメの子育ても、既に終わってしまいました。これまであった巣の嵩上げをして、雛たちを育てていました。つばめは古くから幸運を運んでくると言われてきました。つばめたちの運んでくれる幸運に、大いに期待したいところです。

例年、お盆のある 8 月には帰国していましたが、2020 年はそれも出来なくなってしまいました。2013 年に永住権を取得して、ここに定住して以来、初めてのことでした。8 月、9 月の NZ の真冬も初めての経験でした。

文中にある H はヒトシ、J はジリアンのことです。今年も長くなりましたが、お読みいただければ幸いです。



ガーデニングは無農薬・無化学肥料栽培

今、わが家の畑でやっているのを農業とは言わず、ガーデニングと言っているのは、農業のように農作物を栽培し、販売して、生業にすることを目指している訳ではないからです。それほど、本格的に取り組んでいる訳でもありません。自分の所で生産されたものを食べているのですが、無理して自給自足は目指していません。

栽培するのに農薬はもちろん、除草剤も使いません。肥料は販売されている化学肥料は使わず、馬ふんとかコンポスト（堆肥）で代用しています。最近、コンフリーの液肥を作り、これも使うようになりました。昔ながらの栽培方法です。なるべく安全で安心できるものを食べるようにしています。

わが家は野鳥の楽園か？

野鳥がたくさん生息する中で、生活しています。ツバメは、もっともフレンドリーな感じを抱かせてくれます。とりわけ子育ての時の雛たちの可愛さは、本当に心が癒されます。わが家には隣地から流れてくる水を集めた池があります。今では雑草だらけですが、それを取り除けばスイレンが美しい池です。この池、水深が浅いこともあって鳥たちにとっては絶好の水浴び、水飲み場となっています。

次に鳥たちにとって、都合がいいのが、私たちが野菜の種まきをするために、雑草を取り除き、さらさらの土を集めて畝をつくりタネをまいたときです。格別の砂浴びの場とされてしまいます。NZ には牧草地は全国、至る所にありますが、牧草がなく、畑状態になったところはほとんどありません。

どうも野鳥たちにとって、わが家は楽園のようです。野鳥ではないのですが、隣人の鶏 2 羽も、はるばるやって来て、日長、畑で時を過ごしています。この 2 羽にとっても、楽園のようです。

ジャガイモの芽を喰う鶏

2羽の鶏のことで、もう少し。10月の初めにジャガイモを植えた時のことです。この2羽の鶏がジャガイモを掘り起こし、何と有毒と言われる芽をつつついた跡がありました。たぶんカラダへの影響はあるはずですが、その後も元気いるところを見かけます。動物によっては、毒にはならないのか、NZという特殊風土のなせる業なのか。

ジャガイモの実

12月になり、初めて見つけたのですが、2種類受けたうちの一つの種類のジャガイモに実がなっているのを見つけました。ネットで見ると、それほど珍しいことでもないようなのですが、初めて見ました。トマトが成っているように見えます。ジャガイモもトマトも同じナス科の植物ですから似ていても不思議ではありませんが。

(次回に続きます)

アオ テア ロア (長く白い雲のたなびく国) ニュージーランドより

ジリアン・ヨーク jisabelle29yorke@gmail.com

森下 均 arbo4000@gmail.com

住 所 37 Edwin Road, RD4, Paeroa 3674, New Zealand

電 話 国番号(64)-7-862-6834

日本での携帯電話 090-1291-3361

年会費納入お願い

会員の方は2021年度の年会費3,000円を例会ご出席時にお支払いいただくか、最寄りの郵便局または銀行にて下記口座へお振込み下さいますようお願い申し上げます。

銀行名：ゆうちょ銀行 記号：10180 番号：74818531

受取人名：ニホンニュージーランドキョウカイ

なお、一般銀行からの振込方法は以下の通りです

銀行名：ゆうちょ ⇒ 支店名：先頭文字セを選択 ⇒ リストから〇一八を選択

口座番号：7481853(末尾の1を削除) 受取人名：ニホンニュージーランドキョウカイ



日本ニュージーランド協会

NEW ZEALAND SOCIETY OF JAPAN

2021年度理事 (会長以外は50音順)

会長：山崎 弘子 理事：麻生 敏子、生沼 玲子、神谷 尚武、片山 愛一、佐藤 松雄、
島田 勝弘、Jillian Isabelle Yorke、真島 由香、庄司 桂一郎 (副会長)、
丸山 有紀子 (会計)、水野 伸夫 (副会長) 監事：梅谷 要 顧問：黛 雅男

このニュースレターは、バックナンバーも含めて当協会ホームページでご覧いただけます

